

埼玉羽生道院だより

金剛禅法話資料

金剛禅総本山少林寺埼玉羽生道院

ほんとうの強さってなんだろう？

10月後半の少年部法話学習のテーマは、「ほんとうの強さってなんだろう？」でした。難しいテーマではありますが、私たち少林寺拳法を修行するものにとっては、常に心にとめておくべき課題だと思えます。

少林寺拳法では、本当の強さとは、

- ✧ 悪いことは悪いとはっきり言え、それをやめさせることができる。
- ✧ 自分の強さが社会のために使われる。
- ✧ うぬぼれではない自信と勇気と行動力を持ち、「よりどころとできる自分」をつくる。

としています。

つまり、相手を倒す強さではなく、しっかりした頼れる自分であり、自己を確立するということです。そして、少林寺拳法の修行を通じて自信を身につけ、自分だけでなく、周りの人々も幸せにし、お互いに助け合いながら、世の中の不正に立ち向かう行動力を養うことが大切です。つまり自他共楽です。

「本当の強さとは」を考えるときに、視点を変えて「本当のやさしさってなんだろう？」と考えたらいかがでしょう。「やさしい」という言葉は毎日のように使います。あの友達は、僕に私にやさしくしてくれるから好き、あの先生は、僕に私にやさしくないから嫌いとか、ゲームやその他のプレゼントをくれたからやさしいとかよく使います。

確かに、つらいときや悲しいときになぐさめてくれる人がいたら「やさしい人」と思うでしょう。しかし、自分が間違っただけやしてはいけないことをしてしまった時に注意してくれる人は、「やさしくない人」なのではないでしょうか。ある人にやさしくしようと思ってしたことが、他の人にはやさしくないと思われたりしたことが、ありませんか。

今日の新聞記事に、昨年度の学校で確認されたいじめは3万件以上増えたことが、文科省の調査でわかったということです。特に小学校での増加が多いというのは残念でなりません。

やさしさとは何なのか、どうしたら他の人にやさしくできるのか、どうしたらやさしくしてもらえるのか、考えていきたいものです。

開祖語録

どんな困難にぶち当たっても、「七転び八起き」じゃなくて、中国では、「九転び十起き」といってる。数字に意味を持たしてる。

「九」というのは、最終、数字の終わりなんだ。次がない。またゼロに戻る。「七転び八起き」なんていうのは、これはチョロこい。絶対に死ぬまでは負けたんではないというのが、わたしの信念である。生きてる間は大丈夫。生きてる間は負けたんじゃない。

命さえあれば、どんなことがあったって、いつかは立ち直れるんだ。

少林寺拳法開祖 宗道臣